

J - クレジット制度管理者 御中

実績確認概要書

平成30年2月16日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	ボイラーの高効率化と天然ガス化による温室効果ガス削減事業
承認番号	KC0217
排出削減事業者名	株式会社千代田グラビヤ
排出削減共同実施事業者名	J-クレジット制度事務局 (平成29年度受託者：みずほ情報総研株式会社)
事業実施場所	株式会社千代田グラビヤ 潮来第一工場 茨城県潮来市島須3075-43
事業の概要	高効率のガスボイラーへの設備更新とA重油から天然ガスへの燃料転換により、二酸化炭素排出量を削減する。
排出削減量の計画	2008年度：97 tCO ₂ 2009年度：901 tCO ₂ 2010年度：901 tCO ₂ 2011年度：901 tCO ₂ 2012年度：901 tCO ₂ 2013年度：941 tCO ₂ 2014年度：891 tCO ₂ 2015年度：891 tCO ₂ 2016年度：796 tCO ₂ (事業実施期間合計 7,220 tCO ₂)
クレジット認証期間	開始日 2009年 2月 21日 終了予定日 2017年 2月 20日
排出削減方法論	方法論番号001「ボイラーの更新」

2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日 ～ 2017年1月31日（第2回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	676tCO ₂ (2013年4月1日 ～ 2017年1月31日)
-------	---

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 LNG燃料使用量の集計データ及び事業者へのヒアリングにより、導入設備は実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。□
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 LNG燃料使用量の集計データ及び事業者へのヒアリングにより、モニタリング方法が方法論及び当該削減計画に沿って実施されていたことを確認した。 2) 活動量の正確性 LNG燃料使用量の集計データ及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、エネルギー使用量の記録・保存は適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確認した。 3) 単位発熱量、排出係数等の確認

	<p>LNG燃料使用量の集計データ及び、事業者へのヒアリング並びに J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.2.9 により、排出削減量の算定式及び使用されている排出係数等は方法論及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 排出削減量の算定結果をLNG燃料使用量の集計データとの突合、計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に大きな誤りはないことを確認した。□</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は 2013年4月1日から2017年1月21日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2017年2月20日となっているため、当該算定結果は適切であることを確認した。□</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

前回実績確認から排出削減量が約70%減少しているが、減少理由は以下の通りであることを現地で確認した。

プロジェクト計画時点では第一工場では紙印刷を行っていたが、2010年4月に第三工場を操業開始し、紙印刷は第三工場へ移管し、第一工場はフィルム印刷へ変更した。排出削減量の減少は、紙印刷に比べ、フィルム印刷は乾燥に使用する熱量が少ないことに起因する。

また、今回の実績確認において、LNG気化装置におけるLNG使用量がリーケージの判断基準である排出削減量の5%以上である事を確認した。そのため、本実績確認では、リーケージを考慮している。

6. 特記事項

本実績確認期間における省エネルギー量として、原油換算 44kL、熱量換算 1,699Gであることを確認した。

排出削減量に相当する再生可能エネルギー利用量については該当がないことを確認した。

以上

